

## メタルドゥ 来年1月に第2物流センター稼働

### 特殊金属スクラップの取扱い能力を倍増

#### 需要動向に合せ回収ルートの拡大を目指す

ニッケル系やコバルト系などの特殊金属スクラップの回収、再生、販売を手掛けるメタルドゥ(藤田國廣社長、大阪市西区)は、神戸ポートアイランド(神戸市中央区)に建設中の第2物流センター(敷地面積12,700㎡、うち建屋5,940㎡、総工費23億円)が来年1月に稼働する。既存設備が手狭になっており、完成するとスクラップの取扱い能力は現在の約2倍(45,000t。メタル量)に増える。今後は需要動向に合わせて回収ルートの拡大に取組み年率10%の取扱量の増加を目指す。

#### 取扱量2.2万t回収ルートは国内320社、海外50社

同社の回収や選別などの拠点となる第1物流センター(大阪市此花区。敷地面積10,300㎡、建屋6,300㎡)では、年間22,000tの特殊金属スクラップを扱っており、そのうち航空機やプラントなどを解体した際に発生する使用済みスクラップの回収が7割を占める。回収ルートは国内に320社、海外50社ほどで、電池工業、電子部品産業、プラント産業、航空産業などから発生するスクラップを工場やリサイクル業者などから調達している。

#### ニッケル系の取扱いが全体の6~7割を占める

取扱いの6~7割(14,000~15,000t)を占めるニッケル系は、約4割弱を東南アジアやヨーロッパなどの海外から

輸入している。コバルト系は全体の1割(2,200t)で、9割を国内から調達している。ニッケル系やコバルト系スクラップの回収物で特徴的なことは、ニッケル水素電池(MH)やリチウムイオン電池(LIB)などの2次電池の取扱いが多く、年間4,500tを占める。

#### 可燃性などの危険が伴う金属粉の取扱いが可能に

その他にはチタン、タングステン、タンタル、モリブデンなどを扱う。今年2月には危険物取扱所と、最大5tまで保管が可能な危険物貯蔵所を設置し、可燃性などの危険が伴うタンタルなどの金属粉(危険物第2類第1種可燃性固体)を取扱うことも可能となった。また、ユーザーの要望に答えるためにニッケル及び貴金属などの地金も扱う。

#### スクラップの販売先は内外100社、取扱量の2割強が輸出

スクラップの販売先は内外で100社ほどあり、取扱量の2割強が輸出されている。ニッケル系は7割が国内向けでステンレスなどの特殊鋼メーカーで再利用されている。コバルト系は輸出が7割を占めており、そのうち6~7割が中国向けに酸化物原料や地金原料に再利用されている。国内向けでは磁石鋼原料などに販売している。また、LIBのスクラップは海外大手コバルト製錬メーカーに輸出している。

#### コスト面やユーザーの要望受け一部加工の内製化を検討

同社は切断、破碎、分析、選別などの前処理工程は自社で行っているが、電解、焼成、酸処理などの加工は外注へ出している。今後はコスト面やユーザーからの要望を受け、一部加工の内製化を進めることを検討している。